

東洋大学附属牛久中学校 第8回卒業式 校長式辞

春到来の本日、東洋大学附属牛久中学校第8回卒業証書授与式を挙行するにあたり、ご来賓並びに、多くの保護者の皆様のご臨席をいただきまして、盛大にかつ厳粛に挙行できますことは、本校にとりまして喜びとするところでございます。心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業生66名の皆さんお一人お一人に卒業証書をお渡ししました。改めて卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。皆さんは小学校入学以来9年間の義務教育を修了するとともに、本校での中学校生活に終わりを告げます。

この間、ご両親を始め、家族の方々、そして、先生方の温かい励ましや指導により、立派に成長することができました。まずはこれらすべての方々に感謝の心を持ってほしいと思います。

保護者の皆様におかれましてもお子様のご卒業、誠におめでとうでございます。

本校は、1964（昭和39）年に創立され、昨年4月に60周年を迎えました。今回8期生を送り出す中学校は、本校創立50周年を機に創立されました。

本校の母体となります、東洋大学の創立者、井上円了先生の建学の精神として、「諸学の基礎は哲学に在り」、「独立自活」、「知徳兼全」、を掲げております。これを基礎に本校の教育目標は、

一 知的好奇心と高い志をもち、自ら考え、自ら行動する意欲溢れる生徒の育成

二 深く考える力と本質に迫る健全な批判精神を培い、将来社会に貢献できる人材の育成

を目指してきました。また、教育方針の三に「魅力ある教育活動を展開し、地域社会に貢献する」として、具体的には、「国際理解教育」、「理数科教育・環境教育」、「中・高・大・地域の連携教育」の推進を掲げています。学祖井上円了先生は、「体感」の必要性を実感され、現実世界を活きたテキストとして学び、活きた学問とする「活書活学」を提唱されました。体験の重要性については、本校では六年間を見通した体験的な活動や研修を行い、とくに充実した海外研修があげられます。

中学校段階では、2年生の時はフィリピンでの1週間の語学研修を体験し、3年生になってからは、昨年11月にオーストラリア連邦南オーストラリア州の州都アデレードでの2週間の語学研修、ホームステイの体験を行いました。このように異文化体験、日本とは異なる生活を体験してきました。この体験から多くのことを学んでくれたことでしょう。

一対一での外国人とのコミュニケーションでは、まずは自分の拠って立つところをきちんと理解すること。その上でそのことを相手に理解してもらう。そして、相手の文化や立場を理解する。相手だけでも、自分だけでもなく、お互いのことを深く知って交流、交渉することが大切です。

日本政府観光局によると、昨年2024年に日本を訪れた外国人観光客は約3687万人で、コロナ前に過去最高であった2019年の3188万人を約500万人上回り、過去最高を更新したとされています。これは政府の外国人観光客誘致政策と、外国為替相場での円安の影響の結果でしょう。東アジアのみならず東南アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアの他、多くの地域の人々が日本を多数訪れたようで、日本各地の観光地のみならず様々な場所

で私たちも外国の人と接することになっています。また、留学や仕事で来日する人も今まで以上に増えており、否が応でも私たちは国内にあっても「国際化」せざるを得ません。

本校では、この後も日本文化の研修や、様々な形で外国に研修に行ったり、また外国の高校生が本校にやってくる機会があります。その折には、相手の拠って立つ文化や歴史をよく理解したうえで交流することが大切であると考えます。

さて、これから皆さんは高等学校に進みますが、高校生となったときに新たな気持ちで心がけてほしい言葉があります。今から7年前、2018年に、ノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑教授は受賞が決まった時に自分の座右の銘を聞かれて、

「有志^{ゆうしきようせい}竟成」という言葉を披露してくれました。

有志竟成とは、

有志 志があれば

竟成 ついに成る

とよみ、志ある者はその願いは竟になる。志あるものは、ついに、最終的に成功する。本庶先生の言葉では「志がしっかりしていればいつかは実現できる」という意味です。強い意志で物事を成し遂げることの気迫が必要です。是非大きな志を立ててほしいと願います。

自ら学び、これからのグローバル社会でたくましく生き抜くとともに、自立した社会人として積極的に自分の役割を果たす人間になること。地球規模での課題を解決していくためには、21世紀に生まれ、21世紀の社会を支えていく皆さんの一人一人の力にかかっています。

地球規模で思考のできる真の国際人となってほしいと願います。

改めて保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。中学校の3年間はお子様たちの成長が最も著しい時期であります。高校の教師は中学校の先生方のご指導を経た生徒を受け入れ、3年間を共に過ごし、社会に有為な人材、成人となるよう送り出します。

しかし、中学校の教師は、小学校を卒業したばかりのまだまだ子供の成長を見守り、手助けすることにより、成長した証しを確かめつつ日々共に過ごして大きな喜びを得ていきます。特に多感な中学校段階の3年間に立ち会い、成長を促すことができるのが中学校教師の一番のやりがいでもあります。そのことは私たち教師ではなく、保護者の皆様が一番感じておられるところでしょう。

心からお喜び申し上げますとともに、3年間にわたり本校の教育方針をご理解いただき、ご協力いただきましたことを、本校教職員を代表して御礼申し上げます。

結びに、本日はご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りました保護者の皆様方に心より感謝と御礼を申し上げますとともに、今後とも本校の教育に変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げます、式辞といたします。

2025（令和7）年3月18日

東洋大学附属牛久中学校長 金澤利明